

MGC

2023年度 第1四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2023年8月7日

証券コード
4182



1 | 2023年度 第1四半期 決算概要

2 | セグメント別業績概要

3 | 業績予想

はじめに「2023年度第1四半期決算概要」、続いて「セグメント別業績概要」、最後に「業績予想」という順でご説明いたします。

1 | 2023年度 第1四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

2023年度 第1四半期 業績サマリー



- 営業利益: BT材や芳香族化学品を中心とした全般的な販売数量減少や、ポリアセタール(POM)の市況下落 などにより減益
- 経常利益: メタノール市況下落などにより、海外メタノール生産会社における持分法利益が減少したことなどから減益
- 四半期純利益: 三菱エンジニアリングプラスチックス社の連結化に伴う段階取得差益の計上などにより増益

単位: 億円	2022年度 1Q	2023年度 1Q	増 減	
			金額	%
売上高	1,939	1,870	▲69	▲3.6
営業利益	188	62	▲126	▲67.0
持分法利益	22	▲6	▲29	-
経常利益	248	70	▲178	▲71.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	161	198	+37	+23.2
一株当たり四半期純利益(円/株)	77.73	97.00		
為替レート(JPY/USD)	130	137		

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 4

4ページをご覧ください。

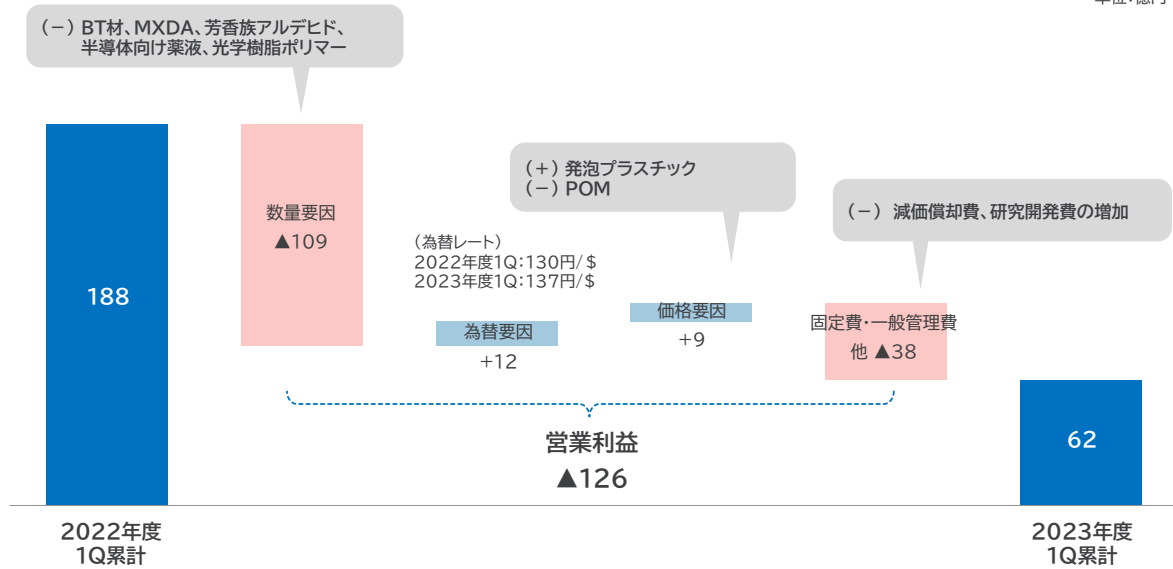
2023年度第1四半期業績のサマリーを示しております。

当第1四半期は、電子材料や芳香族化学品を中心とした、全般的な販売数量減少や、ポリアセタール (POM)の市況下落などにより、営業利益は67%減益の62億円となりました。

また、メタノール市況下落に伴い、海外メタノール生産会社における持分法利益が減少したことなどから、経常利益は71.8%減益の70億円となりました。

2023年度 第1四半期 営業利益 増減要因(前年比)

単位:億円



5ページは2023年度第1四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。

数量要因は、BT材料や芳香族化学品などを中心に全般的に販売数量が減少したことにより、109億円のマイナスとなりました。

為替要因は、ドルおよびその他通貨が円安に振れたことから、12億円のプラスとなりました。

価格要因は、POM市況下落がマイナス要因となるものの、JSPにおける販売価格改定などのプラス要因が上回り、9億円のプラスとなりました。

固定費・一般管理費等は、減価償却費や研究開発費が増加したことなどから、38億円のマイナスとなりました。

1 | 2023年度 第1四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

セグメント別 売上高・営業利益・経常利益



単位:億円	2022年度 1Q	2023年度 1Q	増減
売上高	1,939	1,870	▲69
基礎化学品	1,171	1,019	▲152
機能化学品	788	872	+83
全社/調整	▲20	▲21	▲1
営業利益	188	62	▲126
基礎化学品	76	32	▲44
機能化学品	120	35	▲85
全社/調整	▲9	▲5	+3
経常利益	248	70	▲178
基礎化学品	84	20	▲63
機能化学品	145	47	▲98
全社/調整	19	2	▲16

【参考】主要製品群別(※)

単位:億円	2022年度 1Q	2023年度 1Q	増減
売上高	1,939	1,870	▲69
天然ガス系化学品	616	492	▲123
芳香族化学品	565	535	▲30
機能化学品	596	735	+139
特殊機能材	192	136	▲55
全社/調整	▲31	▲29	+1
営業利益	188	62	▲126
天然ガス系化学品	38	18	▲19
芳香族化学品	38	13	▲24
機能化学品	75	16	▲58
特殊機能材	45	18	▲26
全社/調整	▲9	▲6	+2
経常利益	248	70	▲178
天然ガス系化学品	39	5	▲34
芳香族化学品	44	15	▲29
機能化学品	90	24	▲66
特殊機能材	54	22	▲32
全社/調整	19	2	▲16

※主要製品群別セグメント:便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

7ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。
 詳細は次のページ以降でご説明しますが、左側の表のとおり、基礎化学品は減収減益、
 機能化学品はMEPの連結もあり、増収減益となりました。

また参考値にはなりますが右側に主要製品群別セグメントの損益も示しております。
 いずれのセグメントも、営業利益・経常利益共に減益となりました。

2023年度1Q実績

売上高:

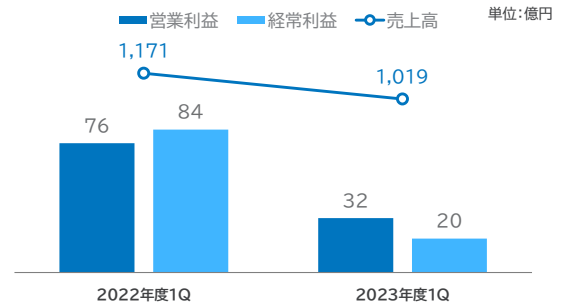
メタノール市況の下落やMXDAの販売数量減少などにより減収

営業利益:

MXDAやMMA系製品の販売数量減少などにより減益

持分法損益:

メタノール市況下落等に伴う海外メタノール生産会社の持分法利益の減少などにより減益



		2023年度1Q実績 (2022年度1Q実績比)	
天然ガス系 化学品	メタノール	🔴	市況が前年同期に比べ下落したことなどから減収減益(前期401→今期308 ¹⁾)
	メタノール・アンモニア系化学品	🔴	MMA系製品の販売数量が減少したことや、アンモニア等市況の下落により減収減益
芳香族化学品	ハイパフォーマンスプロダクト	🔴	米欧景気減速に伴う需要低迷により、MXDAや芳香族アルデヒドの販売数量が減少し減収減益
	キシレン分離/誘導品	🔴	高純度イソフタル酸(PIA)の販売数量減少やユーティリティ費用の上昇などから減収減益
	発泡プラスチック(JSP)	🔵	製品価格改定等による売上の増加や、原料価格低減などから増収増益

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載

単位: 億円	2022年度1Q実績	2023年度1Q実績	増減
売上高	1,171	1,019	▲152
天然ガス系化学品	616	492	▲123
芳香族化学品	565	535	▲30
調整	▲10	▲8	+2
営業利益	76	32	▲44
天然ガス系化学品	38	18	▲19
芳香族化学品	38	13	▲24
調整	0	▲0	▲0
経常利益	84	20	▲63
天然ガス系化学品	39	5	▲34
芳香族化学品	44	15	▲29
調整	0	▲0	▲0

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 8

8ページ、基礎化学品事業についてご説明します。

売上高は、メタノール市況の下落やMXDAの販売数量減少などにより、減収となりました。

営業利益は、MXDA・芳香族アルデヒドや、MMA系製品の販売数量減少などにより、減益となりました。

持分法損益は、メタノール市況の下落に伴い、海外メタノール生産会社の持分法利益が減少したことなどから、減益となりました。

続いて、主要事業別にご説明します。

メタノールは（先ほど申しあげました通り）需要の低迷に伴い市況が前年同期に比べて下落したことなどから、営業利益・持分法利益ともに減益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、アンモニア市況の下落などにより減収となった他、MMA系製品の販売数量減少などにより減益となりました。

ハイパフォーマンスプロダクトは、MXDAと芳香族アルデヒドにおいて、欧米景気の減速に伴い販売数量が減少したことから減益となりました。

キシレン分離/誘導品は、PIAの販売数量減少や、ユーティリティ費用の上昇などにより、減益となりました。

発泡プラスチック（JSP）は、製品価格の改定が進んだことや、原燃料価格の下落に伴い、増益となりました。

2023年度1Q実績

売上高:

三菱エンジニアリングプラスチックス社(MEP)の連結化により増収

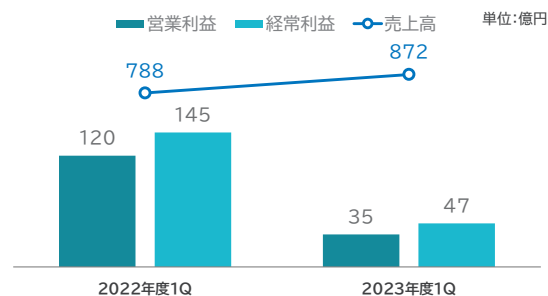
営業利益:

電子材料の販売数量減少、POMの市況下落、ポリカーボネート(PC)、及びPCシート・フィルムの販売数量減少、光学樹脂ポリマーの販売数量減少などにより減益

		2023年度1Q実績 (2022年度1Q実績比)	
機能化学品	無機化学品	➡	原燃料価格上昇等の販売価格への転嫁が増益要因となるも、半導体需要低迷により、半導体向け薬液の販売数量が減少し減収減益
	エンジニアリングプラスチックス	➡	MEP連結化で増収も、POM市況の下落や、PC・PCシート・フィルムの販売数量減少などにより減益
	光学材料	➡	光学樹脂ポリマーの主用途であるスマホ需要が低調に推移したことなどから減収減益
特殊機能材	電子材料	➡	BT材の販売水準は汎用品を中心に前年4Qから回復傾向にあるも、半導体需要が低水準で推移し前年同期比では減収減益
	脱酸素剤	➡	国内食品用途における巣ごもり需要の反動や、輸出販売の減少や原材料価格上昇等で減収減益

三菱ガス化学株式会社

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載



単位: 億円	2022年度1Q実績	2023年度1Q実績	増減
売上高	788	872	+83
機能化学品	596	735	+139
特殊機能材	192	136	▲55
調整	▲0	▲0	+0
営業利益	120	35	▲85
機能化学品	75	16	▲58
特殊機能材	45	18	▲26
調整	▲0	0	+0
経常利益	145	47	▲98
機能化学品	90	24	▲66
特殊機能材	54	22	▲32
調整	▲0	0	+0

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 9

9ページ、機能化学品事業についてご説明します。

売上高は、今四半期より、三菱エンジニアリングプラスチックス社 (MEP) を連結化したことにより、増収となりました。

営業利益は、電子材料の販売数量減少、POMの市況下落、ポリカーボネート (PC)、PCシートフィルムなど 全般的な販売数量の減少により、減益となりました。

続いて主要事業別にご説明申し上げます。

無機化学品は、昨年1月に一部のカスタマーグレード製品で実施した価格改定が増益要因となりましたが、半導体需要の低迷により薬液の需要は全般に減少したため、減益となりました。

エンプラについて、PCは、MEP連結化に伴い増収となりましたが、高付加価値品を含めPCやPCシート・フィルムの販売数量が減少したため営業利益は減益となりました。POMも、需給軟化に伴う市況の下落により、減益となりました。

光学樹脂ポリマーは、主用途であるスマホ需要が低調に推移したことなどから減収減益となりました。

BT材は、販売水準は汎用品を中心に確実に回復傾向にあります。好調であった前年同期比では減益となりました。

1 | 2023年度 第1四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

最後に、業績予想についてご説明します。

2023年度 業績予想



単位:億円	2023年度上期			2023年度下期			2023年度通期		
	前回予想	今回予想	差異	前回予想	今回予想	差異	前回予想	今回予想	差異
売上高	3,900	3,800	▲100	4,600	4,600	0	8,500	8,400	▲100
営業利益	220	140	▲80	320	320	0	540	460	▲80
持分法利益	29	10	▲19	46	33	▲12	76	43	▲32
経常利益	240	160	▲80	340	330	▲10	580	490	▲90
親会社株主に帰属する当期純利益	330	250	▲80	230	220	▲10	560	470	▲90

【2023年度上期】

前回予想比で、営業利益▲80億円、経常利益▲80億円

前回予想に比べ、POMの市況下落や、BT材の需要回復ペースの遅れ、PCやMXDA、MMA系製品の販売数量の下振れなどが見込まれ、売上高及び各段階利益は前回予想を下回る見通し

【2023年度下期】

売上高、営業利益は前回予想を据え置き(セグメント別の見直しは実施)。経常利益▲10億円(主にメタノール市況下落に伴う持分法利益の減少)

下期業績予想のポイントは13ページ参照

11ページをご覧ください。

2023年度上期については、

売上高は、期初予想比100億円下振れの3,800億円、

営業利益は、80億円下振れの140億円、

経常利益は、80億円上振れの160億円の予想です。

POMの市況下落や、BT材料の需要回復ペースの遅れ、PCやMXDA、MMA系製品などの販売数量の下振れなどが見込まれ、売上高および各段階利益は前回予想を下回る見通しです。

下期については売上高、営業利益は前回予想を据え置きとしております。

ただし個別のセグメント別の見直しは実施しており、下期業績予想のポイントについては後ほど13ページでご説明いたします。

- 新潟工場、鹿島工場等の修繕費増加
- メタノール: 市況は310ドルを想定(1Q:308ドル)
- MXDA、芳香族アルデヒド: 欧米需要は徐々に改善、1Q比で販売数量の増加を見込む
- エレケミ(半導体向け薬液): 半導体需要の低迷が続き、需要は引き続き弱い見通し
- POM、PC: POM市況は1Q並みを見込む。PC・PCシートフィルムも1Q並みの利益水準
- 光学樹脂ポリマー: スマホ需要は弱い状況が継続するも、1Q比では販売数量の増加を見込む
- BT材: 本格的な回復は下期以降と想定するも、1Q比では販売数量の増加を見込む

■為替前提(2Q): 1ドル135円(1Q比2円の円高)、1ユーロ145円(1Q比4円の円高)
(為替感応度(USD、概算):1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益))

■原油価格前提(2Q): 80ドル/bbl.(1Q比2ドルの上昇)
(原油感応度(USD、概算):1ドル/bbl.の上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

12ページをご覧ください。

第2四半期の営業利益の見通しについて、第1四半期からの変化を中心に示しております。

第2四半期は、新潟工場、鹿島工場での修繕が重なるため、修繕費は第1四半期に比べ増加する見通しであり、第1四半期比での減益要因となっております。

メタノール市況は、310ドルを想定しており、第1四半期とほぼ横ばいの見通しです。

MXDAや芳香族アルデヒドは、欧米市場向けの販売において、在庫調整局面からの緩やかな回復を見込んでおります。

エレケミは、第2四半期は引き続き半導体市場は低迷が続くと想定され、当社の超純過酸化水素などの薬液需要も弱い見通しです。

エンプラについて、POM、PCともに需要は回復傾向にはあるものの、第2四半期はまだその力強さに欠け、POM市況は第1四半期並みを見込みます。PCも第1四半期並みの利益水準を予想しております。

光学樹脂ポリマーは、スマホ需要は弱いものの、北米などのスマホ新機種向けの立ち上がりが見込まれることなどから、第1四半期比では販売数量の増加を予想しております。

BT材は、本格的な需要回復は下期を想定しておりますが、汎用向けなどを中心に確実に需要は回復傾向にあり、第1四半期比でも販売数量の増加を見込んでおります。

【基礎化学品】

- メタノール：需要回復、市況も反転を予想。想定市況価格は340ドル(上期309ドル)
- MXDA、芳香族アルデヒド：欧米向け需要の回復により、販売数量は増加を想定
- 発泡プラスチック(JSP)：発泡ポリプロピレンの販売好調、原料価格の軟化などにより利益水準は前回予想を上回る見通し
- 例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定

【機能化学品】

- エレケミ(半導体向け薬液)：半導体需要の回復に伴い、販売数量増加を見込む
- POM、PC：自動車やOA向け需要の回復を見込む。またPCは引き続き不採算販売を抑制しつつ、高透明品、コンパウンド品やPCシートの数量増加により収益力を改善
- 光学樹脂ポリマー：スマホ新機種向けの作りこみなどにより販売数量の増加を想定
- BT材：メモリ需要の回復やスマホ向けの増加などにより販売数量の増加を想定

■為替前提：1ドル135円(前回予想比5円の円安)、1ユーロ145円(前回予想比5円の円安)
(為替感応度(USD、概算)：前回予想比+15億円/下期)

■原油価格前提：80ドル/bbl.(前回予想と同じ)
(為替感応度(USD、概算)：前回予想比±0億円/下期)

最後に13ページ、2022年度下期業績予想のポイントをご覧ください。

はじめに、基礎化学品ですが、

メタノールについては、冬場の季節要因による供給制限や需要の回復による需給バランス改善を見込み、市況は340ドルを想定しております。

MXDA、芳香族アルデヒドは、上期の在庫調整局面は改善され、欧米向け需要の回復に伴って販売数量は増加する見通しです。

発泡プラスチック(JSP)は、上期に引き続き発泡ポリプロピレンの販売好調、原料価格の軟化などにより、利益水準は前回予想を上回る見通しです。

なお、例年同様、第4四半期に水島工場での定修を予定しております。

続いて、機能化学品ですが、

エレケミは、半導体市場の回復に伴い、販売数量の増加を見込みます。各顧客の大型投資は引き続き計画されており、2024年以降は一時的な踊り場局面から脱却し超純過水の需要が伸びる見込みです。

エンプラについて、POM、PC共に、徐々に回復傾向にある自動車市場やOA向け需要の増加を想定しております。またPCは高透明品やコンパウンド品などの販売増により収益力の改善も見込みます。

光学樹脂ポリマーは、スマホ新機種生産のピークを迎えることなどから、販売数量の増加を見込んでおります。

BT材料は、汎用向けやスマホ搭載用部品向けの更なる受注回復に加え、PCやメモリ需要の回復も想定しており、低反り材や高周波材も含め販売数量の増加を想定しております。

なお、為替前提は、1ドル135円、1ユーロ145円としており、いずれも前回予想から5円の円安見通しです。円安効果による営業利益の押し上げ影響はドル感応度で15億円程度と見込んでおります。

また、原油価格の前提は、前回予想同様の1バレル80ドルの見通しです。

私からの説明は以上になります。

Appendix

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位: 億円	2022年度(実績)			2023年度(前回予想)*			2023年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,900	4,600	8,500	3,800	4,600	8,400
基礎化学品	2,363	2,425	4,789	2,088	2,299	4,387	2,021	2,326	4,348
機能化学品	1,618	1,471	3,090	1,865	2,354	4,220	1,827	2,327	4,154
全社/調整	▲33	▲34	▲67	▲53	▲54	▲107	▲49	▲53	▲103
営業利益	335	155	490	220	320	540	140	320	460
基礎化学品	144	43	188	71	107	178	67	84	151
機能化学品	203	122	326	171	234	405	95	257	353
全社/調整	▲13	▲11	▲24	▲22	▲21	▲44	▲22	▲22	▲44
経常利益	499	198	697	240	340	580	160	330	490
基礎化学品	208	96	305	91	138	230	73	97	171
機能化学品	253	134	387	179	229	408	112	260	373
全社/調整	37	▲32	4	▲30	▲28	▲59	▲26	▲28	▲54

セグメント別 2022年度及び2023年度 四半期別推移



単位:億円	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q(予)	上期(予)	下期(予)	通期(予)
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	1,929	3,800	4,600	8,400
基礎化学品	1,171	1,192	1,293	1,132	4,789	1,019	1,002	2,021	2,326	4,348
機能化学品	788	829	772	699	3,090	872	954	1,827	2,327	4,154
全社/調整	▲20	▲13	▲21	▲12	▲67	▲21	▲27	▲49	▲53	▲103
営業利益	188	146	118	36	490	62	77	140	320	460
基礎化学品	76	68	44	▲1	188	32	34	67	84	151
機能化学品	120	83	80	42	326	35	60	95	257	353
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲24	▲5	▲16	▲22	▲22	▲44
経常利益	248	250	138	59	697	70	89	160	330	490
基礎化学品	84	124	81	15	305	20	53	73	97	171
機能化学品	145	107	81	52	387	47	65	112	260	373
全社/調整	19	18	▲25	▲7	4	2	▲28	▲26	▲28	▲54

参考:主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移(※)



単位:億円	2022年度(実績)			2023年度(前回予想)*			2023年度(今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,900	4,600	8,500	3,800	4,600	8,400
天然ガス系化学品	1,194	1,277	2,471	966	1,119	2,085	933	1,103	2,036
芳香族化学品	1,190	1,167	2,357	1,141	1,200	2,342	1,108	1,243	2,352
機能化学品	1,261	1,228	2,489	1,588	1,928	3,517	1,547	1,933	3,480
特殊機能材	358	244	602	276	426	703	280	394	675
全社/調整	▲54	▲53	▲108	▲74	▲75	▲149	▲69	▲74	▲144
営業利益	335	155	490	220	320	540	140	320	460
天然ガス系化学品	65	23	88	21	52	73	25	30	56
芳香族化学品	79	19	98	50	54	105	41	53	94
機能化学品	129	111	241	102	142	245	43	152	196
特殊機能材	74	10	84	68	91	160	51	105	157
全社/調整	▲13	▲10	▲23	▲22	▲21	▲44	▲22	▲21	▲44
経常利益	499	198	697	240	340	580	160	330	490
天然ガス系化学品	121	79	201	41	91	133	27	51	78
芳香族化学品	87	16	103	50	47	97	46	46	92
機能化学品	164	117	281	104	134	239	51	152	204
特殊機能材	88	17	106	74	95	169	61	107	168
全社/調整	37	▲32	▲5	▲30	▲28	▲59	▲26	▲28	▲54

※主要製品群別セグメント(便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります)

*2023年5月12日公表

参考:主要製品群別 2022年度及び2023年度 四半期別推移(※)



単位:億円	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q(予)	上期(予)	下期(予)	通期(予)
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	1,929	3,800	4,600	8,400
天然ガス系化学品	616	577	677	600	2,471	492	440	933	1,103	2,036
芳香族化学品	565	624	626	540	2,357	535	573	1,108	1,243	2,352
機能化学品	596	664	642	585	2,489	735	811	1,547	1,933	3,480
特殊機能材	192	165	129	114	602	136	143	280	394	675
全社/調整	▲31	▲23	▲32	▲21	▲108	▲29	▲39	▲69	▲74	▲144
営業利益	188	146	118	36	490	62	77	140	320	460
天然ガス系化学品	38	27	17	5	88	18	6	25	30	56
芳香族化学品	38	40	27	▲7	98	13	27	41	53	94
機能化学品	75	54	72	39	241	16	27	43	152	196
特殊機能材	45	29	8	2	84	18	33	51	105	157
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲23	▲6	▲16	▲22	▲21	▲44
経常利益	248	250	138	59	697	70	89	160	330	490
天然ガス系化学品	39	81	53	26	201	5	21	27	51	78
芳香族化学品	44	42	28	▲11	103	15	31	46	46	92
機能化学品	90	73	66	50	281	24	26	51	152	204
特殊機能材	54	34	15	1	106	22	38	61	107	168
全社/調整	19	18	▲25	▲7	5	2	▲28	▲26	▲28	▲54

※主要製品群別セグメント(便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります)

2023年度 第1四半期 貸借対照表



単位:億円	2023年3月末	2023年6月末	増 減	単位:億円	2023年3月末	2023年6月末	増 減
流動資産	4,832	5,303	+470	負債	3,580	4,062	+481
現預金	1,083	972	▲111	買掛債務	883	1,029	+146
売掛債権	1,766	1,864	+98	有利子負債	1,669	1,934	+265
棚卸資産	1,781	2,189	+407	その他	1,027	1,098	+70
その他	201	276	+75				
固定資産	5,460	5,793	+333	純資産	6,712	7,034	+322
有形固定資産	3,137	3,355	+218	株主資本	5,738	5,867	+128
無形固定資産	119	286	+166	その他包括利益累計額	337	430	+92
投資その他の資産	2,203	2,151	▲51	非支配株主持分	636	737	+100
資産合計	10,293	11,097	+804	負債・純資産合計	10,293	11,097	+804
				自己資本比率	59.0%	56.7%	▲2.3

参考：各種指標（1）

単位：億円	2019	2020	2021	2022	2023(予)
設備投資額 [1Q]	423 [115]	402 [87]	547 [115]	646 [153]	1,070 [183]
減価償却費 [1Q]	295 [71]	306 [75]	319 [78]	335 [79]	400 [91]
研究開発費 [1Q]	196 [45]	199 [47]	210 [49]	235 [55]	275 [62]
年度末人員(人)	8,954	8,998	9,888	10,050	11,018
一株当たり当期純利益 (円/株)	101	173	232	239	229
ROA(総資産経常利益率) (%)	3.9	6.2	8.4	7.1	4.4
ROE(自己資本当期利益率) (%)	4.3	7.1	8.8	8.3	7.6
ROIC(投下資本利益率)*1 (%)	4.9	7.7	10.4	8.8	5.4
売上高営業利益率 (%)	5.6	7.5	7.8	6.3	5.5
EBITDA*2	616	817	1,070	1,050	921
配当金(円/株)*3 [うち中間配当]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]	80.0 [40.0]	80.0 [40.0]

*1 ROIC=経常利益/投下資本 *2 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息
*3 当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した適及修正による数値を表示しております。
※記念配当10円を含む

参考：各種指標（2）



	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期予想	下期予想
為替(JPY/USD)	109	109	107	105	110	115	134	137	136	135
為替(JPY/EUR)	121	120	121	126	131	130	139	143	147	145
原油価格(Dubai) (USD/bbl.)	64	56	37	52	69	87	102	83	79	80
メタノール (USD/MT) アジアスポット平均価格	277	245	194	319	370	428	375	351	309	340
原料キシレン(USD/MT)	705	640	420	560	780	875	1,105	925	930	880
ビスフェノールA (USD/MT)*	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,300	1,200 ~1,400
ポリカーボネート (USD/MT)*	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,850	1,700 ~1,900

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)
 為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益2億円/年、経常利益2億円/年の減益(増益)
 原油(Dubai) : \$1/bbl.の上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
 メタノール : メタノール市況\$1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

報告セグメント	主要製品群	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) ・発泡プラスチック事業(子会社JSP)
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見直しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

